

(株) 姫路生花卸売市場

姫路市

委託先：就労継続支援B型事業所

主な作業内容
リンドウの栽培管理・収穫・袋入れ



農福連携を重要な事業として位置づけ 西播磨でのリンドウ産地育成に取り組む

全国の産地から花きの調達を行い、その取扱高で西日本トップクラスの「姫路生花卸売市場」。小学生を対象にした「お花で心を育てる」花育授業活動や、耕作放棄地を切花生産地に転換するなどの地域貢献活動を積極的に行っています。同社では、仏花などの需要が多いリンドウの主産地である東北地方からのトラック輸送問題をきっかけに、2022年から西播磨でのリンドウ産地育成の取り組みを開始。西播磨地域の園芸農家や営農組合などに加え、2024年現在、農園を所有する4カ所の福祉事業所と農福連携によるリンドウ栽培を行っています。

春の萌芽から7～9月の収穫まで、主に就労支援B型事業所の利用者が従事し、姫路市の社会福祉法人では、初年度は300株の試作からスタート。次年度には2000株のリンドウから約6000本の出荷を実現しました。宿根草のリンドウは、水やりと草取りをしっかり行えば定植後5年程度は毎年収穫できるので、福祉事業所でも扱いやすい作物として前向きに取り組んでもらっています。姫路市内のリンドウ自生地が市の動植物保護地区に指定されたこともあり、同社では重要な事業パートナーである福祉施設とともに、リンドウの産地ブランド化を推進しています。



作業上の工夫点や報酬について

定植次年度からは播種が不要で、収穫の際は刃物を使わず手で折り取るなど、農作業の手間が比較的に少ないリンドウ栽培ですが、夏場の水やりや草取り時の「暑さ対策」が大きな課題になっています。姫路市の社会福祉法人では、体を冷却するための空調服を着用。簡易組立式の日除けテントをほ場内の作業場所ごとに移動させながら、15分ごとに休憩と水分補給を行っています。収穫、選別をした後は、切花を市場へ出荷してもらっています。



担当の石原洋輔さん

(2025年1月取材)